



KT 手法マニュアル



KT 手法

BIC では、様々な手法を用いて短期的に有利にゲームを進めます。

バカラは、プレイヤーとバンカーにカードを2～3枚配り、どちらが9に近いかを予想するゲームです。また、ルーレット等と違い場に出るカードはカードシューターと呼ばれるカードを6～8デッキ入れる箱に入っており、ここに入っているカードからディーラーがゲームごとにカードを配っていきます。

つまり、場に出たカードとシューターに残ったカードには関連性がある為、テレコや、ドラゴン等、特殊な波が存在するというわけです。

[テレコ]

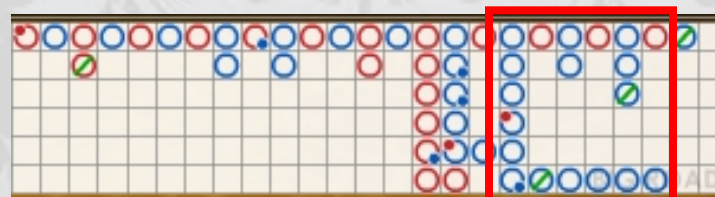
プレイヤーとバンカーが交互に続く事を言う。



[ドラゴン]

プレイヤーもしくは、バンカーが7回以上連続して続く事を言う。

罫線表は縦に6個しか無い為、7回以上続くと右に罫線表示が折れます。



ちなみに、ドラゴンの最高記録はギネスに登録されており、最高 33 回連続で出続けたそうです。

バカラの基本ルールは、シンプルで分かりやすいのが人気の秘訣です。

また、バカラは 600 年近く続くゲームでカジノができる前からゲームとして人気だったようです。

現在のリアルカジノの 9 割近い利益は、バカラから出ています。

それだけ人気が高いという事ですね！

波を読むという点においては、様々なパターンに応じて分析する人もいますが

結局は、オカルトでしかないという人もいます。

ただし罫線表を眺めていると、不思議な事にテレコが続きやすかったりドラゴンが出たり、

2 連続が続いたり、ある一定の形が表れているのがわかると思います。

KT 手法に話を戻しますが、この手法は特にシュートの最初のみ焦点を当てて、1 ポイントを確実に取っていくやり方になります。

KT 手法の過去検証結果を下記に記載します。

[KT 手法過去検証結果] 2017/04~2017/07 の 4 カ月間のデータ

2845 戦 2511 勝 334 敗

勝率：88.26% (勝率は 1 台当たり)

過去最大連敗数：5 回

平均利益：0.94p

平均損失：6.00p

ペイオフレシオ：0.1567

合計損益：**+356.34p**

[システムベッティング法のおさらい]

KT手法は、1 pを取りに行くやり方になりますので、システムベッティング法に当てはめると下記の通りになります。

ー勝ちパターンー

- ・初回から勝った場合は、+1 p勝ちで終了となりその台を離れます。
- ・1回目負け→2回目勝ちの場合

	1回目	2回目
賭け金	1 p	2 p
損益	-1 p	+1 p

- ・1回目負け→2回目負け→3回目勝ち→4回目勝ちの場合

	1回目	2回目	3回目	4回目
賭け金	1 p	2 p	3 p	1 p
損益	-1 p	-3 p	±0 p	+1 p

※3回目で勝った場合、通常のシステムベッティング法では4回目は2 p賭けになりますが、KT手法は1 pを取りに行く方法の為、4回目は1 p賭けになります。ここでは、4回目も勝ったので1 p勝ちとなり、台を離れます。

ー負けパターンー

- 1回目負け→2回目負け→3回目負けの場合、3連敗で-6 pとなり損切りです。
- 1回目負け→2回目負け→3回目勝ち→4回目負け→5回目負け→6回目負けの場合

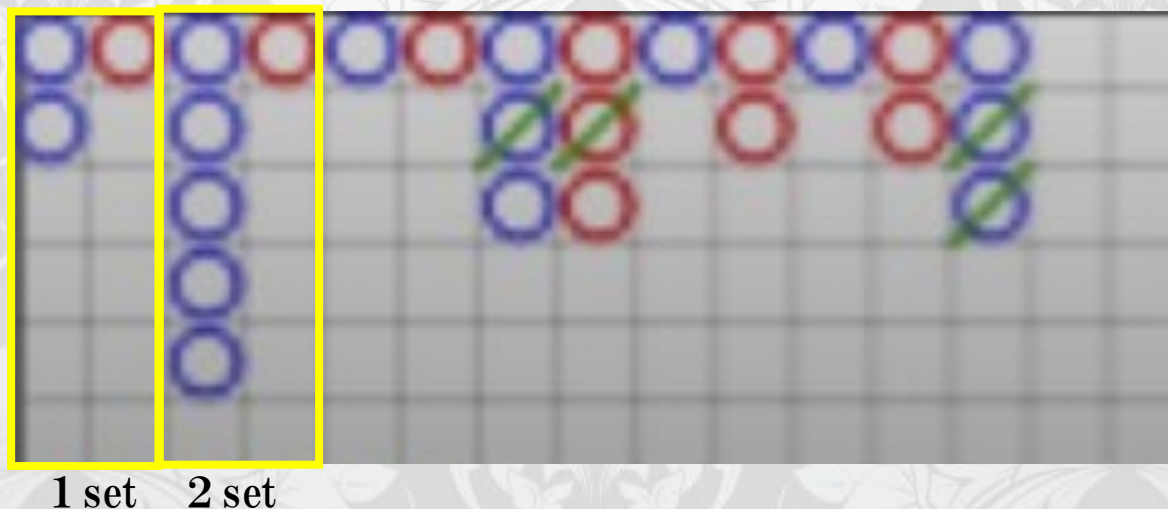
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
賭け金	1 p	2 p	3 p	1 p	2 p	3 p
損益	-1 p	-3 p	±0 p	-1 p	-3 p	-6 p

負けパターンは上記の2例のみとなります。

このように、KT手法では賭け金が3 pに上がった場合に、勝ったとしても次のゲームで2 p賭けをせずに、1 pに落とす（初回賭けにリセットする）ことで、リスクを抑える方法をとっております。

KT 手法の最大の特徴は、勝率の高さにあります。
平均利益と平均損失の比率を表している「ペイオフレシオ」は、低いものの高い勝率でカバーして、トータルで勝ちを狙っていく手法です。

では、早速その具体的な方法について解説します。
まずシュートの最初からみて、罫線表の縦 2 列を 1 セットとして考えます。



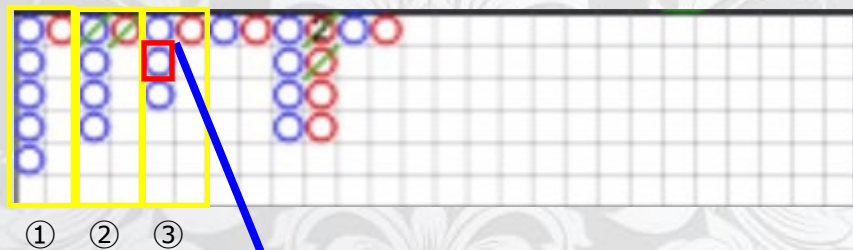
KT 手法のチャンス台判別条件を文章で表すと、

「シュートの最初からみて、縦 2 列を 1 セットとしその 1 セット内でプレイヤー、バンカーどちらかが優勢の状態が、2 セット目も同じように優勢だった場合、次の 3 セット目のプレイヤーもしくはバンカーに賭ける」

となります。優勢の状態とは、劣勢側より 1 つ以上連続が多い事です。

文章で表現すると、非常に混乱すると思いますので実際に罫線表を使って説明します。

[条件例 1] P=プレイヤー (青○) B=バンカー (赤○) / =タイ



3set 目にプレイヤーが確定

[1 set→P 5回>B 1回、 2 set→P 4回>B 1回]

この場合、1set 目も 2set 目もプレイヤーが優勢です。これで条件成立となり、3set 目のプレイヤーが確定した時点で、次のゲームからプレイヤーに賭けます。

結果：3set 目にプレイヤーが確定した後、プレイヤーに賭けて勝ち。1p の勝ちです。

□の部分から賭け始めます。

[条件例 2] P=プレイヤー (青○) B=バンカー (赤○) / =タイ



3set 目にバンカーが確定

[1 set→P 1回<B 2回、 2 set→P 1回<B 4回]

この場合、1set 目も 2set 目もバンカーが優勢です。これで条件成立となり、3set 目のバンカーが確定した時点で、次のゲームからバンカーに賭けます。

結果：3 set 目にバンカーが確定した後、バンカーに賭けたが 1 回目はプレイヤーが出て負け。

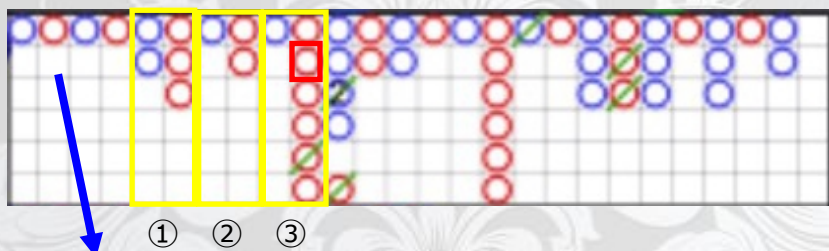
2 回目はバンカーが出て勝ち。トータルで 0.9 p の勝ちです。

バンカーで勝った場合は、バンカーコミッション 5% がカジノ側にとられますので、

条件例 2 の場合は、最初に 1 p 負けて次に 2 p 賭けて勝ったので 0.9 p 勝ちとなります。

□の部分から賭け始めます。

[条件例 3] P=プレイヤー (青○) B=バンカー (赤○) / =タイ



[1 set→P 2回<B 3回、 2 set→P 1回<B 2回]

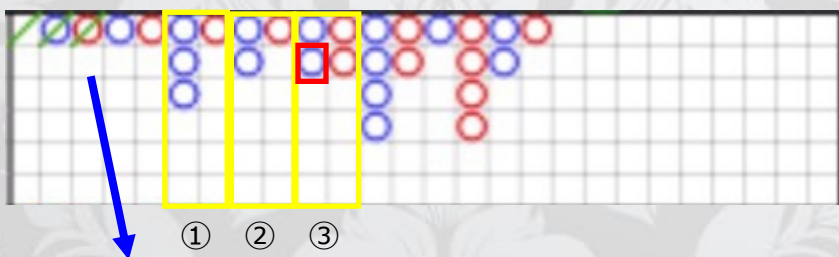
この場合、1set目も2set目もバンカーが優勢です。これで条件成立となり、3set目のバンカーが確定した時点で、次のゲームからバンカーに賭けます。

※上記のようにシュートの最初にテレコが発生した場合は、無視できます。

結果：3set目にバンカーが確定した後、バンカーに賭けて勝ち。0.95pの勝ちです。

□の部分から賭け始めます。

[条件例 4] P=プレイヤー (青○) B=バンカー (赤○) / =タイ



[1 set→P 3回>B 1回、 2 set→P 2回>B 1回]

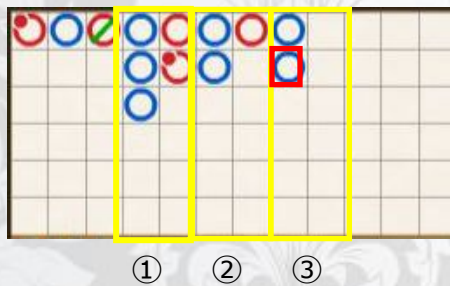
この場合、1set目も2set目もプレイヤーが優勢です。これで条件成立となり、3set目のプレイヤーが確定した時点で、次のゲームからプレイヤーに賭けます。

※上記も条件例3と同じくテレコが発生していますので、テレコは無視できます。

結果：3set目にプレイヤーが確定した後、プレイヤーに賭けて勝ち。1pの勝ちです。

□の部分から賭け始めます。

[条件例 5] P=プレイヤー (青○) B=バンカー (赤○) / =タイ



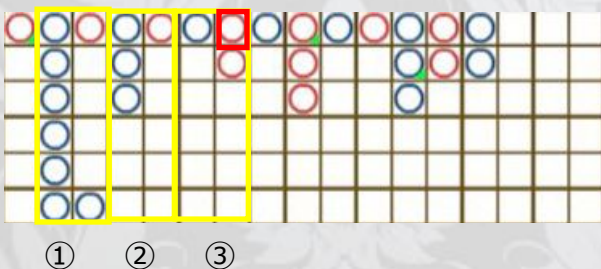
[1 set→P 3回>B 2回、2 set→P 2回>B 1回]

この場合、1set目も2set目もプレイヤーが優勢です。これで条件成立となり、3set目のプレイヤーが確定した時点で、次のゲームからプレイヤーに賭けます。

※上記は、一見成立していないように見えますが、最初のBPBのテレコを除外すると、 $P3 < B2 \cdot P2 < B1$ となるのでプレイヤー優勢で成立しています。こういった特殊な形は見逃しがちですので、気を付けて下さい。

結果：3set目にプレイヤーが確定した後、プレイヤーに賭けて勝ち。1pの勝ちです。
□の部分から賭け始めます。

[条件例 6] P=プレイヤー (青○) B=バンカー (赤○) / =タイ



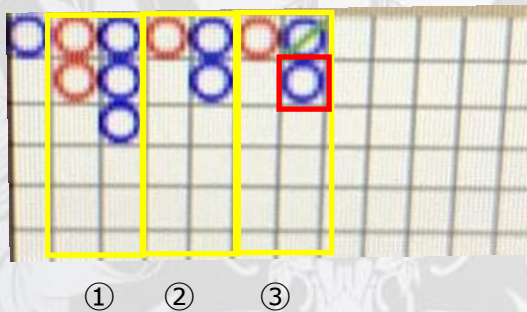
[1set→P 7回>B 1回、2set→P 3回>B 1回]

この場合、1set目も2set目もプレイヤーが優勢です。これで条件成立となり、3set目のプレイヤーが確定した時点で、次のゲームからプレイヤーに賭けます。

※上記のようにドラゴンが優勢側に発生しても、問題ありません。

結果：3set目にプレイヤーが確定した後、プレイヤーに賭けて負け、次に2p賭けて負け。2連敗した後、3p賭けて勝って±0に。その後、1p賭けに戻し負け、2p賭けて負け3p賭けて負けと、3連敗したため損切りで-6pとなりました。
□の部分から賭け始めます。

[条件例 7] P=プレイヤー (青○) B=バンカー (赤○) / =タイ



※上記は、一見成立していないように見えますが、最初のプレイヤーを除外すると、 $B2 < P3 \cdot B1 < P2$ となるのでプレイヤー優勢で成立しています。

結果：3set 目にプレイヤーが確定した後、プレイヤーに賭けて勝ち。1p の勝ちです。
□の部分から賭け始めます。

条件成立したあとは、システムベッティングマニュアルにある通りに賭けていきますが、
1回目：1 p 賭けて負け (-1 p)、2回目：2 p 賭けて負け (-3 p)、3回目：3 p 賭けて勝ち (±0) となった場合、通常は次回 2 p 賭けとなりますが、KT 手法の場合は ±0 になった時点で 1 p 賭けに戻します。

その後は、また最初に戻りシステムベッティング通りに賭けていきます。
KT 手法は、常に 1 p 勝ったら終了ですので、この方法でリスクを減らしています。

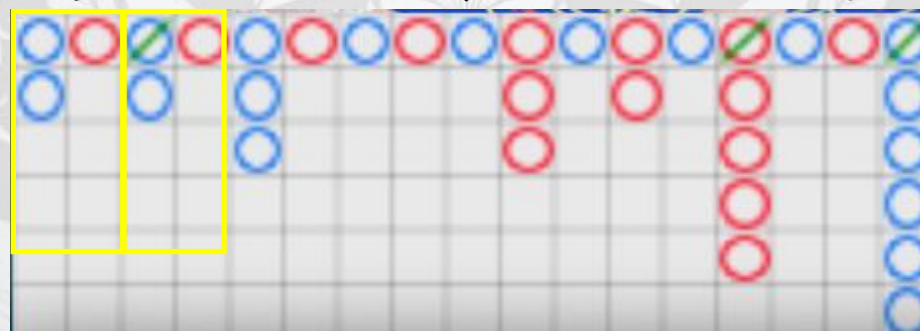
また、ストレートで 3 連敗すると -6 p となり、損切り確定となりその台を抜けます。
つまり 1 p 勝つか、6 p 負けるかでその台から抜けます。

KT 手法フィルター

下記のフィルターを常に入れることで、安定した成績を継続する事が出来ます。
マニュアルに記載した過去検証結果は、このフィルターを採用したものになりますので、
条件成立+フィルターをしっかりと見るようにして下さい。

下記のフィルターに掛かった場合は、台を離れましょう！（ゲーム回避）

- 1) ニコイチ（PPBPPB のように $2 \cdot 1 \cdot 2 \cdot 1$ や $1 \cdot 2 \cdot 1 \cdot 2$ になること）

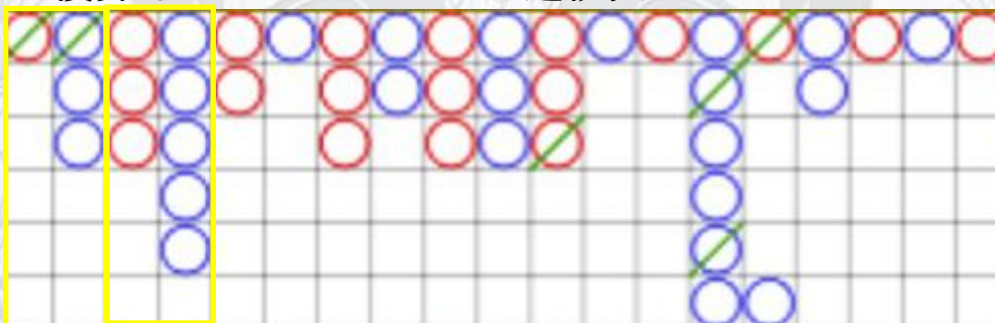


- 2) ツライチ（PPPBBPPP のように優勢側が3連以上の同じ数で並ぶこと）



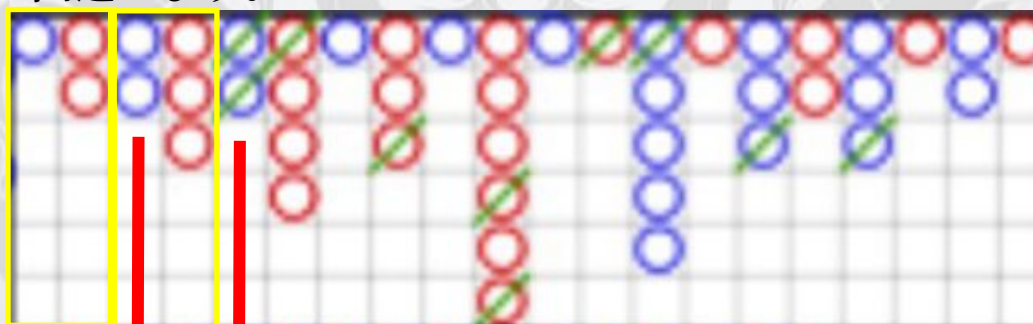
3) 劣勢が3連続以上 (劣勢側が3連以上を作らないこと)

下記は、プレイヤーが優勢なのにバンカーに3連続出ているパターンですので、回避します。



4) 劣勢の2連続以上が2個 (劣勢側の2連続以上は1回まで)

下記は、バンカー優勢でしたが3set目にプレイヤー2連続が出現し、劣勢2連続以上が2個となったため、回避します。



2 set目で条件成立したが、劣勢側のプレイヤーに2連続が2回来ている。
1 set、2 setで条件成立後も、プレイヤー2連続2個のフィルターは見る事。

補足：過去検証での勝率は88.26%、損益分岐点は約86%程度です
これを踏まえて、次ページのような立ち回りを提案致します。

[立ち回りについて]

- ☆ +10Pになったらその日は終了する。
- ☆ 負けてマイナスになったらプラス圏になるまで続けて、達成し次第終了する。
ただしフィルターを入れると、回数は減りますが勝率は上がるので、
時間がある限り、続けられるだけ続けるのもアリでしょうし、
負けたらBET割合を増やして強気で追隨するのも良いと思います。

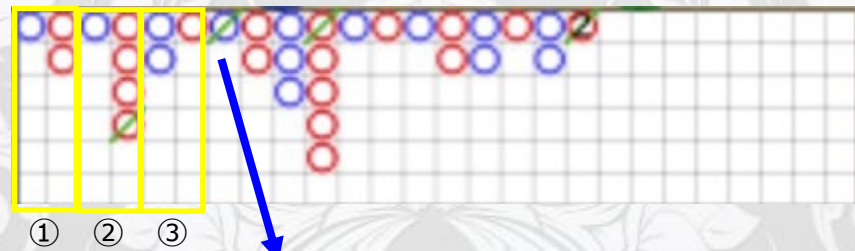
[裁量を加えた精度アップの方法]

KT手法は高い勝率で、1pを確実にとっていくという特徴がある手法になりますが、絶対に連敗しないという手法ではありません。

その日の波が悪く、いきなり2連敗、3連敗を引いてしまう可能性もございます。
最初に連敗を引いてしまうと、6連勝、12連勝を取らなければプラテンしない為、
取り戻すのが困難になります。

この方法は、1回の損失を抑えたい人向けの方法となります。

優勢、劣勢の条件確定後、フィルターを確認するところまでは通常の方法と変わりませんが、その後、実際に賭けたと仮定し、1敗するまでLOOK（賭けないで見ておく）します。



本来はここでバンカーに賭ける

上記は、条件例2の罫線図になります。

この場合、3 set目にバンカーが確定した次のゲームでバンカーを賭けますが、プレイヤーが出て1敗します。

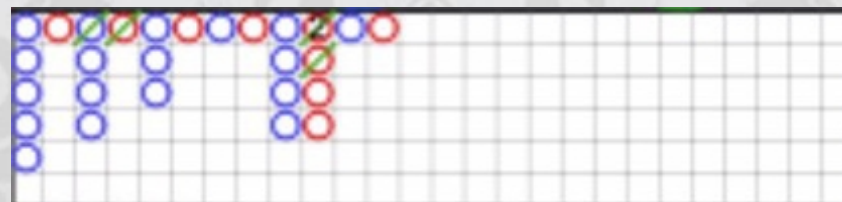
この1敗を賭けずにLOOKするという事です。

1敗をLOOKする事により、このゲームでは初回で1勝します。

万が一、負けた場合は次に2 pを賭けます。そこでも負けた場合は、損切りになります。

つまり、損切りが通常6 pのところを、2回分しか追わない為、損切りは半分の3 pとなります。

逆に、下記のように初回から勝ってしまう罫線の場合は、初回の勝ちをLOOKしてしまうので、その分取引回数は減ってしまうというデメリットがあります。



この方法をとることで、1回の損失を抑えつつ利益は通常と変わらず約1pを狙えるようになり、ある程度の連敗も、短時間でプラテンまで持っていく事が可能になります。

これはあくまでも裁量での方法です。

カジノにログインした時点で直近のKT手法の調子

(一回目から勝てるのか、1回目をスルーした方が良いのか、負けはあるか)を確認した上で、1回スルーしてみるという“裁量”による精度アップ法になります。

実際に取引に入る前に、各ロビーにて条件に一致するチャンス台を探してみましょう！

[KT手法裁量を加えた場合の過去検証結果] 2017/04~2017/07の4カ月間のデータ

1661戦 1305勝 356敗

勝率：78.57% (勝率は1台当たり)

過去最大連敗数：7回

平均利益：0.962p

平均損失：3.00p

ペイオフレシオ：0.3127

合計損益：**+187.41p**

無裁量のほうが勝率、合計損益ともに良いですが、裁量を入れると1回の損失が減りますので、連敗時のメンタルへの影響が少なくなるという特徴があります。

私の普段の運用や配信では臨機応変に裁量を入れてますが、長期的なバランスを考えた場合、優位性が高いので迷った場合は、無裁量の通常手法をオススメ致します。